国際競争力強化技術開発プロジェクト
二番茶、秋冬番茶の輸出を可能とするIPM体系の開発
【研究概要図】

1．研究目的

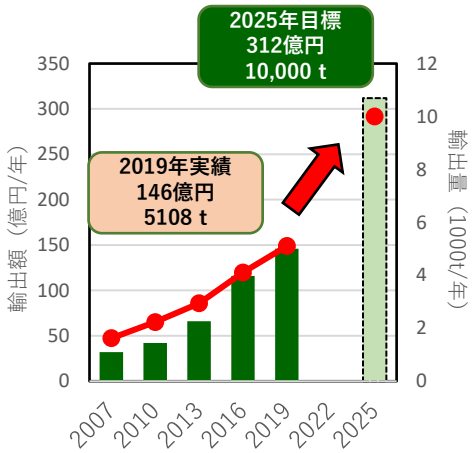
輸出国の残留農薬基準値をクリアしつつ、二番茶、秋冬番茶の輸出が可能な輸出対応型IPM（病害虫総合管理）体系を開発・産地実装し、産地競争力の強化と日本茶輸出の政府目標（2025年に312億円）の達成に貢献する。

2．研究背景

・「茶」は輸出重点品目であり輸出額が増加している（2019年：146億円）
↑「一番茶の輸出を可能とする病害虫防除体系」（地域戦略プロ）
・「輸出拡大戦略」で新たな数値目標設定（2025年：312億円）
↑二番茶、秋冬番茶の輸出不可欠

“二番茶、秋冬番茶の輸出を可能とする病害虫防除体系”が必要！

輸出向け防除マニュアル



日本茶の輸出実績と新たな政府目標

3．研究内容

①農薬の残留リスク評価と輸出向け栽培での合理的利用法の提示

②耐病性品種利用や物理的防除法等の農薬代替防除技術の導入

③産地ニーズに対応した輸出対応型IPM体系の開発・実証

クワシロカイガラムシは
高湿度条件では孵化できない

散水防除と耐病性茶品種「せいめい」

4．達成目標・期待される効果

達成目標

・産地ニーズに対応した輸出対応型IPM体系の実装（４産地）
・多様な輸出向け茶種の持続的安定生産（←病害虫被害低減）

期待される効果

・輸出可能茶葉の増産による茶輸出の一層の促進（目標達成）
・輸出用茶葉の持続的安定生産による産地競争力の強化

研究代表機関：農研機構植物防疫研究部門

共同研究機関：鹿児島農総セ、宮崎総農試茶支、福岡農林試八女、静岡農専大、（株）伊藤園